

株主・投資家の皆様へ

LINTEC

WAVE

リンテックウェーブ

*Linking
your
dreams*

SEPTEMBER 2021

84

● 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

● スペシャルレポート

デジタル社会を支える
リンテック

第128期
(2022年3月期)
第1四半期
決算情報

証券コード：7966



のどろこ
能取湖

北海道網走市のオホーツク海沿岸にある海水の湖。湖畔には塩湿地に生育するサング草（アッケシソウ）の国内最大級の群生地があり、毎年秋には赤く色づいて見頃を迎える。

目次

2 連結業績推移

3 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

4 スペシャルレポート

デジタル社会を支えるリンテック

8 FRONT LINE

9 新聞広告シリーズ

10 決算情報

12 セグメント情報

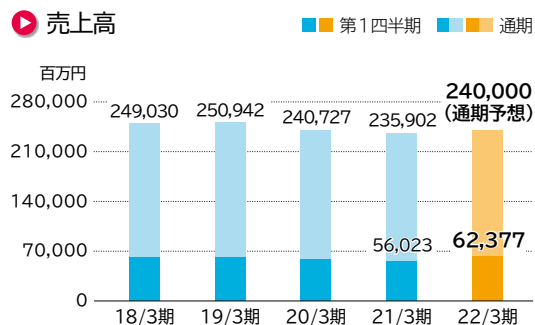
15 株式情報

(免責事項)

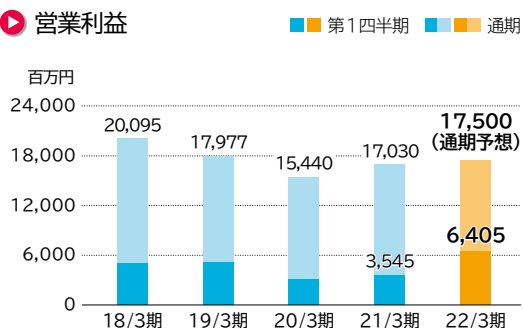
業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績推移

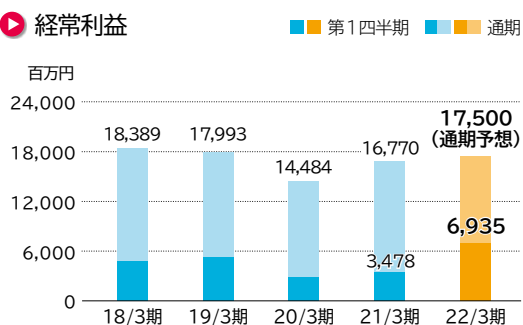
売上高



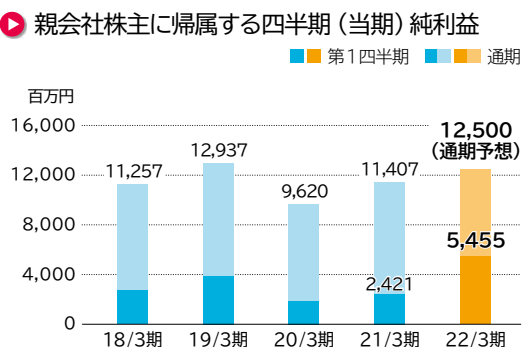
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



▶ 2022年3月期第1四半期連結累計期間（前年同期比）

売上高

62,377 百万円（11.3%増）

営業利益

6,405 百万円（80.7%増）

経常利益

6,935 百万円（99.4%増）

親会社株主に帰属する四半期純利益

5,455 百万円（125.3%増）

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2022年3月期第1四半期連結累計期間の業績は、半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられ順調に推移し、そのほかの製品についても需要が回復したことなどから、上記のとおり増収増益となりました。なお、収益認識に関する会計基準の適用により、売上高は約28億円のマイナス影響を受けましたが、利益面においては四半期ベースでいずれも過去最高となります。

▶ 2022年3月期 連結業績予想（前年同期比）

売上高	2,400億円 （1.7%増）
営業利益	175億円 （2.8%増）
経常利益	175億円 （4.3%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	125億円 （9.6%増）

※ 上記の実績および予想は収益認識に関する会計基準適用後の数値となっており、前年同期比は参考値として記載しています。



代表取締役社長
社長執行役員 **服部 真**
はっとり まこと

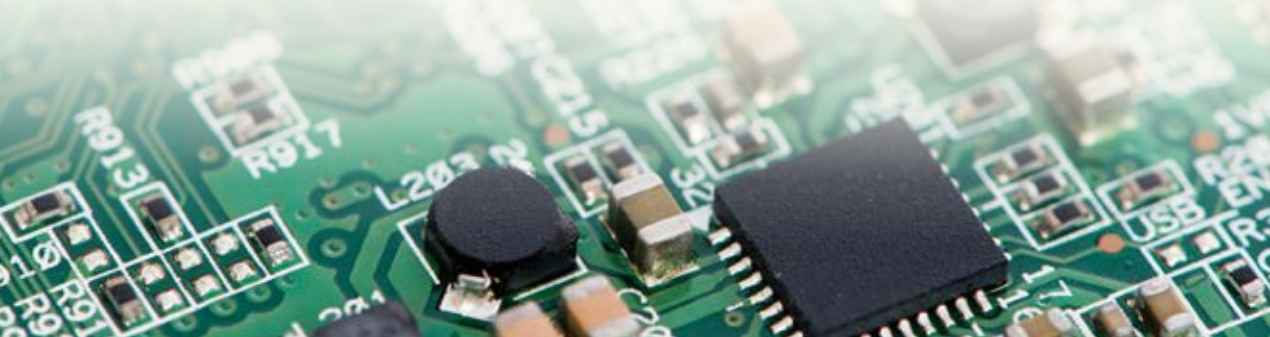
当社グループでは、2030年を見据えた長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」（LSV2030）を掲げ、その実現に向けて2024年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」を今期からスタートさせました。幸先の良い出だしとなりましたが、コロナ禍で予断を許さない経営環境が続いています。全社一丸となって各施策に着実に取り組み、目標達成を目指してまいりますので、株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

▶ 「LSV 2030-Stage 1」2024年3月期 経営目標

売上高	2,550億円
営業利益	210億円
親会社株主に帰属する当期純利益	140億円
売上高営業利益率	8%以上
ROE（自己資本当期純利益率）	7%以上

デジタル社会を支えるリンテック

近年、さまざまなモノやサービス、機能が電子化され、利便性や即時性などを大幅に向上させるデジタル化が急速に進んでいます。スマートフォンやパソコンをはじめとする電子機器には半導体チップや積層セラミックコンデンサと呼ばれる電子部品が多数使われており、デジタル化の流れの中で家電製品や自動車への搭載数も年々増加しています。今号では、これら電子部品の製造において重要な役割を果たすリンテックのエレクトロニクス関連製品についてご紹介します。



身の回りで幅広く使用されている半導体チップ・積層セラミックコンデンサ

半導体チップや積層セラミックコンデンサは、極めて小さい電子部品でありながらさまざまな機器に数多く搭載されており、私たちの便利で快適な生活に不可欠な存在となっています。

通信機器関連



- スマートフォン
- タブレット端末
- パソコン など

家電関連



- 薄型テレビ
- エアコン
- 冷蔵庫 など

自動車関連



- 電気自動車
- 先進運転支援システム など

産業関連



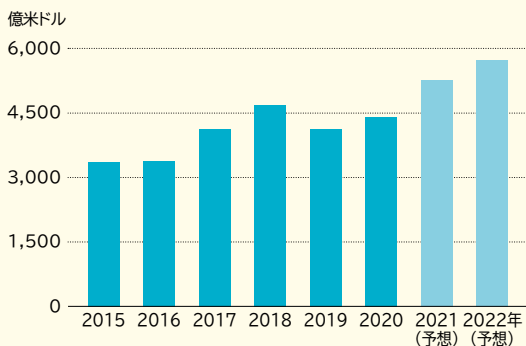
- データセンター
- 工場の設備・機器
- 医療機器 など

半導体チップとは？

電気を通しやすい物質（導体）と通さない物質（絶縁体）の中間的な性質を持つシリコンを薄い円盤状にしたウェハの表面に電子回路を形成し、個々のチップに切り出したもので、電子機器の頭脳として情報を処理したり、記憶したりする役割を担います。コロナ禍によるテレワークの普及・拡大などに伴って、パソコンをはじめとする電子機器の需要が急増したことから、現在、半導体が世界的に供給不足となっています。今後さまざまなモノがインターネットとつながる「アイオーディーIoT」や高速通信規格「ファイブジー5G」の普及、さらには自動車の電装化の進展などに

よって一層の需要拡大が予想されており、世界の半導体メーカーが生産能力の増強に向けた投資を加速させています。

世界の半導体市場予測

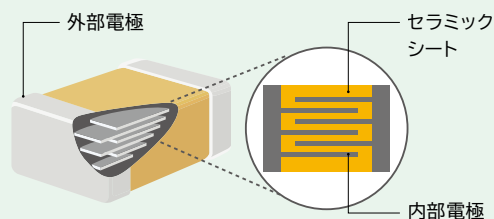


出所：WSTS（世界半導体市場統計）

積層セラミックコンデンサとは？

電気を蓄えたり電流を整えたりする機能などを持つ1mm角にも満たない大きさの電子部品で、小さいものだと0.25mm以下のものもあります。その内部は電極を印刷した誘電体（セラミック）シートを積層した構造になっており、限られた容積の中で蓄えられる電気の量を増やすために、厚さが千分の1mm以下という極めて薄いシートが数百から千層近く積み重ねられています。電子機器などの高機能・大容量化に伴い、コンデンサの搭載数は年々増加。機器の小型化によってコンデンサ自体の小型化も進んでおり、その製造工程で使われる部材にも高い品質や性能が求められています。

積層セラミックコンデンサの構造



積層セラミックコンデンサの搭載数



リンテックのエレクトロニクス関連製品

当社グループでは、半導体チップの製造工程で使用される各種粘着テープやそれらのテープを貼付・剥離するための関連装置をはじめ、積層セラミックコンデンサの製造に欠かせない高平滑な剥離フィルムなどのエレクトロニクス関連製品を開発・製造・販売しています。それらを主力とする

アドバンスドマテリアルズ事業部門では、昨今の半導体チップや積層セラミックコンデンサの急速な需要拡大を受け、2021年3月期には過去最高の売上高を記録。さらに今期の第1四半期についても四半期ベースで最高の売上高となるなど、当社グループの業績をけん引しています。



半導体関連粘着テープ



半導体関連装置



積層セラミックコンデンサ関連テープ

市場におけるリンテック独自の強み

当社は1986年に紫外線（UV）の照射によって粘着力を自在にコントロールできる半導体ウェハ切断工程用の固定テープを開発し、半導体関連分野に本格参入しました。以降、半導体の製造工程で活躍する高機能テープを数多く送り出し、市場での確かな地位を築いています。さらに独自設計による関連装置も手がけ、半導体メーカーに粘着テープと装置を組み合わせるプロセス提案できることも大きな強みとなっています。

また、積層セラミックコンデンサの分野においては、当社の精密薄膜塗工技術などを駆使して高品質な製品を安定供給しており、その優れた表面平滑性や耐熱性、剥離性などは市場から高い評価を得ています。

当社では国内外にこれらのエレクトロニクス関連製品の製造・販売拠点を設け、地域や顧客で異なるニーズに迅速に対応しています。今後も市場の需要やトレンドを見極めながら、体制の強化を図っていきます。

INTERVIEW

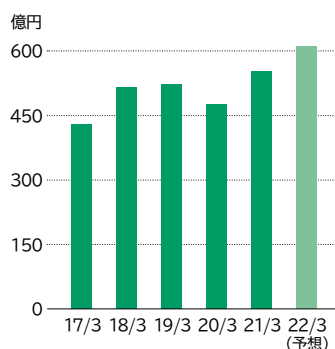
現在の事業環境や今後の戦略・展望などについて、アドバンストマテリアルズ事業部門長に話を聞きました。

さらなる成長に向けた事業基盤の強化と新製品開発に注力します

2021年3月期は米中貿易摩擦の長期化と新型コロナウイルスの感染拡大という二つの世界的な問題による影響が懸念されましたが、当事業部門においてはスマートフォン市場における勢力図の変化や急速なデジタル化の進展が追い風となり、非常に好調な1年となりました。今期も引き続き、需要は高い水準で推移すると見えています。

今期からスタートした中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」の3年間は、今後のさらなる成長に向けた事業基盤強化の期間と捉えています。旺盛な市場ニーズに対応するために生産体制を一層拡充しつつ、海外子会社の販売管理システムの強化やDX（デジタルトランスフォーメーション）による事業運営のスマート化に注力していきます。同時に既存製品の改良や設備の再構築、環境対応などにも取り組んでいく方針です。新製品の創出も今後の成長には欠かせないテーマであり、特に半導体ウェハに電子回路を形成する工程において、最先端の防塵カバーとして使用されるEUV（極端紫外線）露光装置用ペリクルの開発・事業化に注力しています。将来的には独自の半導体製造プロセスを開発・提案するような事業展開も図っていきたいと考えています。

アドバンストマテリアルズ事業部門
売上高推移



上席執行役員
事業統括本部副本部長兼
アドバンストマテリアルズ
事業部門長
もちだ きんや
持田 欣也



フ ロ ン ト ラ イ ン FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍中の社員を紹介する当コーナー。今回は豊富な技術の知識を持って、営業に近い立場から新製品開発に携わる技術・開発室のスタッフをご紹介します。

技術・開発室
企画開発グループ

おおはた けんじ
大畠 健二

2009年入社。研究所の粘着材料研究室や素材設計研究室を経て、2018年に事業統括本部の技術・開発室へ配属。主にシール・ラベル用粘着製品の開発・拡販に従事。

Q 現在の仕事について教えてください。

営業スタッフと共にお客様の元へ足を運んでニーズを伺い、それを研究員と共有して新製品開発や既存品の改良につなげる、いわば“橋渡し”の役割を担っています。現在は改ざん防止用ラベル素材や抗菌・抗ウイルス性を付与したラミネートフィルムを担当していますが、お客様の反応がすぐに分かるのは研究所にいた頃との大きな違いですね。



改ざん防止用ラベル素材

剥がそうとするとその痕跡が残るようにつくられたラベル素材。貼られていた対象物に「開封済」などの文字が浮き出るタイプや、表面基材が破れてしまうタイプなどがあります。

Q 研究所での経験は今の仕事にどのように生かされていますか。

製品の開発・改良に当たっては、研究員とのスピーディーな連携が欠かせません。私は当室に配属になる前の9年間は研究所にいましたので、幸い誰がどんな研究をしているのかよく分かっており、案件に合わせてその分野に詳しい研究員にすぐに相談することができます。また、研究所の設備や試験方法などに関する知見がお客様への最適な提案につながることもあり、当時の経験が非常に役立っていると思います。

Q 今後の抱負を聞かせてください。

研究所では担当製品に関する高い専門性が求められましたが、今は知識の幅も求められます。今後は製品知識をさらに増やしてお客様のさまざまなご要望にお応えしていきたいと思います。また、当室の役割の一つである海外材料の探索にも注力し、それらを活用することで今まで以上にグローバル市場で展開できる新製品の開発に挑戦したいと考えています。





リンテック流 名言・格言集



皆様の暮らしを豊かにする当社の製品や技術などをイメージした“リンテック流”のオリジナル名言・格言と、目を引く偉人風のシルエットを組み合わせて表現した新聞広告シリーズです。

【掲載紙】 日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、上毛新聞、神戸新聞、愛媛新聞、日刊工業新聞、化学工業日報

リンテック流
名言・格言集

新たな価値は
予想外の
出会いから
生まれる

小豆の殻を資源として有効活用
独特な模様と風合いが特徴の混抄紙

リンテック株式会社

7月 July 掲載広告

当社では独自の特殊紙製造技術を生かして、通常は廃棄処分される小豆の殻を資源として有効活用。木材パルプに混ぜ合わせて抄くことで独特な模様と風合いが特徴の意匠性に優れた混抄紙を開発し、手提げ袋や封筒、包装紙などの用途で幅広くご利用いただいています。

リンテック流
名言・格言集

視点を少し
変えるだけでも
見える世界は
一変する

見る角度によって視界が変わる
窓ガラス用の特殊高機能フィルム

リンテック株式会社

8月 August 掲載広告

窓ガラスに貼ると、見る角度によって透明に見えたり、すりガラス状に見えたりする独自設計の視界制御フィルム。ガラスが持つ透明性や採光性を損なうことなく、見せたくない部分の視界をカットできるため、窓からの景観を保ちながらプライバシーの保護にも貢献します。

リンテック流
名言・格言集

自由な発想を
形にする力が
人々の心を
動かしてゆく

独自のデザインで空間を演出する
屋内装飾用デジタルプリント壁紙

リンテック株式会社

9月 September 掲載広告

オリジナルの装飾模様をはじめ、イラストや写真などを大判インクジェットプリンタで出力できる当社の屋内装飾用デジタルプリント壁紙。防火認定を取得するなど安全性にも配慮し、商業施設からオフィス、ホテル、一般住宅まで、独自デザインの空間演出を実現します。

詳しくは
こちらのサイトで
御覧いただけます

**DREAM
FACTORY**

www.lintec.co.jp/dream/ad

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
流動資産	172,838	170,098
固定資産	117,811	110,164
① 資産合計	290,650	280,262
流動負債	66,232	63,506
固定負債	19,721	19,406
② 負債合計	85,954	82,912
③ 純資産合計	204,696	197,350
負債純資産合計	290,650	280,262

四半期連結損益計算書及び 四半期連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
④ 売上高	62,377	56,023
売上総利益	17,055	13,911
販売費及び 一般管理費	10,649	10,366
⑤ 営業利益	6,405	3,545
経常利益	6,935	3,478
税金等調整前 四半期純利益	7,208	3,478
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,455	2,421
四半期包括利益	10,122	555

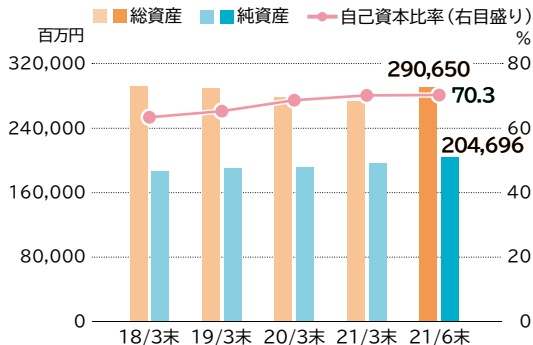
□ポイント！

- ① 資産合計 現金及び預金が減少しましたが、棚卸資産、有形固定資産が増加したことなどにより、総資産は103億87百万円増加しました。
- ② 負債合計 未払法人税等が減少しましたが、支払手形及び買掛金が増加したことなどにより、負債は30億41百万円増加しました。
- ③ 純資産合計 利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことなどにより、純資産は73億45百万円増加しました。
- ④ 売上高 収益認識会計基準の適用により、オブティカル材事業部門が大幅に減少しましたが、アドバンストマテリアルズ事業部門が好調に推移したほか、そのほかの事業部門でも需要が回復したことなどにより、売上高は63億54百万円増加しました。
- ⑤ 営業利益 電子・光学関連の増益に加え、印刷材・産業工材関連が黒字化したことなどにより、営業利益は28億60百万円増加しました。
- ⑥ 親会社株主に帰属する四半期純利益 営業利益の増加に加え、為替差益や米国子会社買収に伴う負ののれん発生益の計上などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億33百万円増加しました。

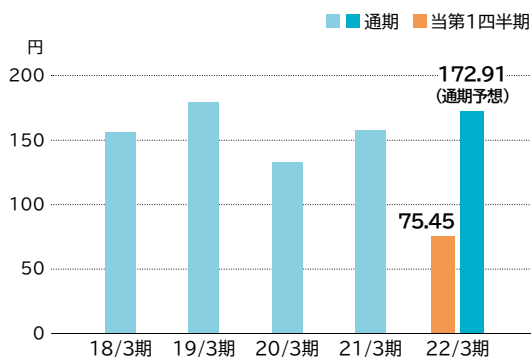
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	7,905	6,335
投資活動による キャッシュ・フロー	△8,325	△2,404
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,587	△4,466
現金及び現金同等物の 四半期末残高	55,257	50,945

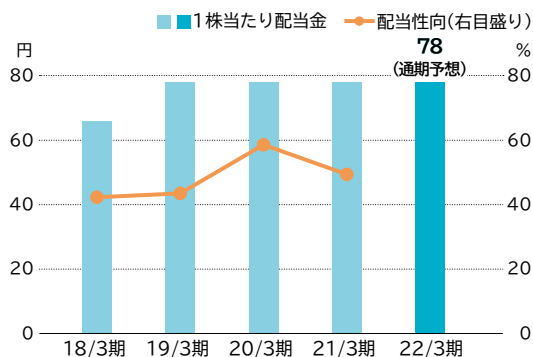
総資産・純資産・自己資本比率



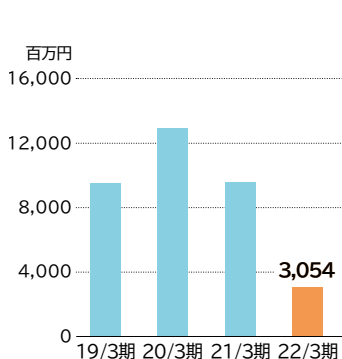
1株当たり四半期(当期)純利益



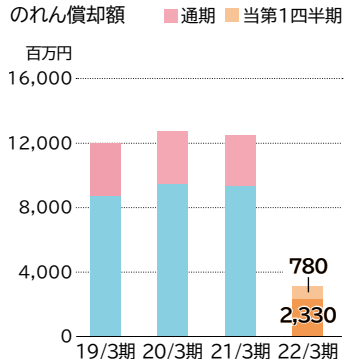
1株当たり配当金・配当性向



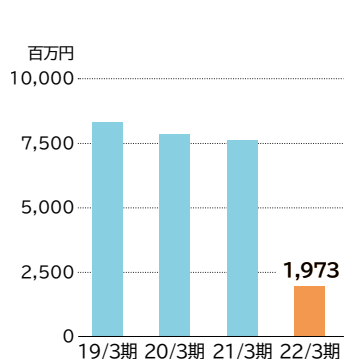
設備投資額



減価償却費 のれん償却額



研究開発費

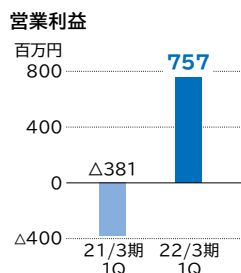
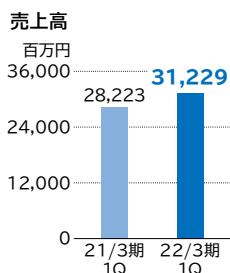


セグメント情報 2022年3月期第1四半期連結累計期間

印刷材・産業工材関連

売上高 **312億29百万円** (10.6%増)

営業利益 **7億57百万円** (一)



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

印刷・情報材事業部門 売上高 **235億28百万円** (8.6%増)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム

シール・ラベル用粘着製品は、国内では化粧品や医薬関連、飲料キャンペーン用などの需要は低調だったものの、食品や通販関連の需要が堅調に推移しました。海外では米国や中国、アセアン地域において堅調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。



産業工材事業部門 売上高 **77億円** (17.6%増)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム

国内外ともに自動車用粘着製品やウィンドーフィルムの需要が大きく回復し、そのほかの製品についても堅調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。



※ 2022年3月期の期首よりマックタック・アメリカ社の産業工材事業部門に関わる全ての製品を印刷・情報材事業部門へ移管しました。

※ セグメント別の営業利益および営業利益構成比は、セグメント間取引消去前の数値に基づいています。

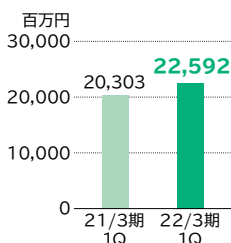
※ () 内は前年同期比

電子・光学関連

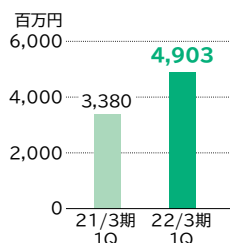
売上高 **225億92百万円** (11.3%増)

営業利益 **49億3百万円** (45.0%増)

売上高



営業利益



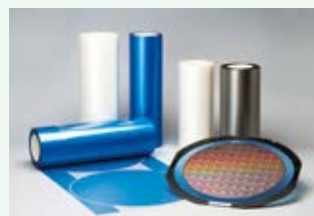
当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

アドバンスマテリアルズ事業部門 売上高 **168億16百万円** (33.4%増)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ

半導体関連粘着テープや関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープは、5G対応のスマートフォンやカーエレクトロニクス需要の増加、テレワーク拡大に伴うパソコン需要の増加などにより好調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。



オプティカル材事業部門 売上高 **57億76百万円** (25.0%減)

主要製品

- 偏光フィルム／粘着加工
- タッチパネル関連製品

光学ディスプレイ関連粘着製品は、大型テレビ用やスマートフォン用などの中小型向けともに需要が増加したことにより堅調に推移しました。なお、収益認識に関する会計基準適用の影響を受け、当事業部門の売上高は前年同期に比べ大幅に減少しました。



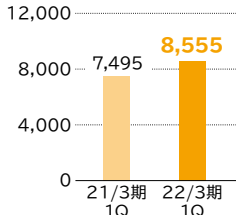
※ 2022年3月期の期首より洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期第1四半期の実績は組み替えて記載しています。

洋紙・加工材関連

売上高 **85億55百万円** (14.1%増)営業利益 **7億29百万円** (37.9%増)

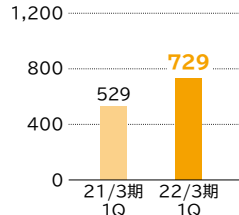
売上高

百万円



営業利益

百万円



当セグメントの事業部門別の売り上げの概況は次のとおりです。

洋紙事業部門 売上高 **40億56百万円** (8.4%増)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 建材用紙

主力の封筒用紙は前年同期並みだったものの、工業用特殊紙やファストフード向け耐油耐水紙の需要が回復しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。



加工材事業部門 売上高 **44億99百万円** (19.8%増)

主要製品

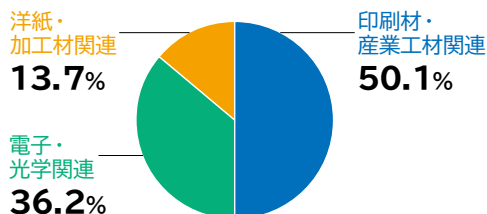
- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙

合成皮革用工程紙は自動車関連の需要が大幅に回復しました。また、電子材料用剥離紙も順調に推移しました。この結果、当事業部門の売上高は前年同期に比べ増加しました。

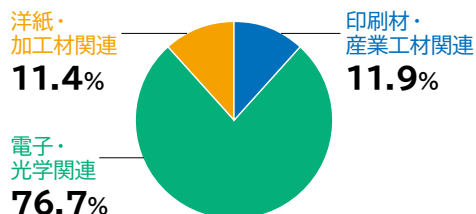


※ 2022年3月期の期首より洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期第1四半期の実績は組み替えて記載しています。

売上高構成比



営業利益構成比



株式情報 (2021年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数 (ただし自己株式4,334,323株を除く)	72,313,217株
単元株式数	100株
株主数	6,313人

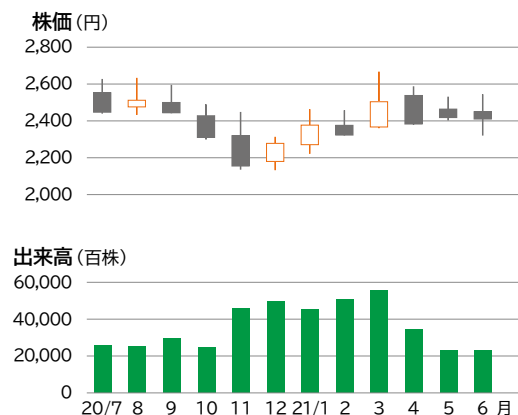
大株主の状況 (上位10人)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本製紙株式会社	21,737	30.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,363	6.03
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	3,515	4.86
全国共済農業協同組合連合会	2,625	3.63
庄司 たみ江	1,796	2.48
株式会社かんぽ生命保険	1,715	2.37
塩飽 恵以子	1,543	2.13
リンテック従業員持株会	1,092	1.51
株式会社日本カストディ銀行 (信託口 7)	839	1.16
塩飽 一誉子	803	1.11

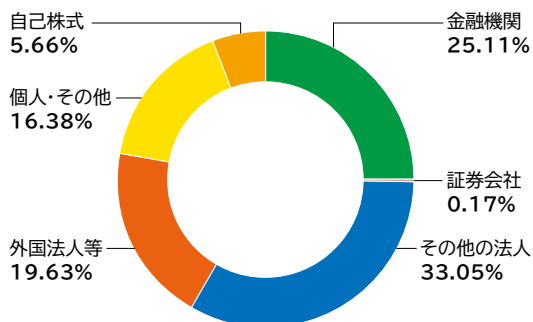
注1. 当社は自己株式4,334,323株を保有しておりますが、上記表からは除外しております。

注2. 持株比率の算定に当たっては、自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移 (2020年7月～2021年6月)



所有者別分布比率



会社概要 (2021年6月30日現在)

社名	リンテック株式会社 (英文: LINTEC Corporation)
本社	東京都板橋区本町23-23
設立	1934年10月15日
資本金	233億653万3,561円
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	連結: 4,913人 単体: 2,618人 (2021年3月31日現在)
事業所	営業拠点: 東京、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国11か所 生産拠点: 吾妻(群馬県)、熊谷・伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、 龍野・新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、三島・土居・新居浜(愛媛県) 研究拠点: 蕨・さいたま(埼玉県) 海外事務所: ハノイ(ベトナム)
連結子会社	国内: 3社 海外: 39社

株主メモ

定時株主総会	6月
配当基準日	期末: 3月31日 中間: 9月30日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・郵便物送付先	
・フリーダイヤル	☎ 0120-232-711
・ホームページアドレス	www.tr.mufig.jp/daikou

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に
口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座
管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

法定公告掲載ホームページアドレス
www.lintec.co.jp/ir/stock/koukoku.html



リンテック株式会社 *Linking your dreams*

● 本社 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
URL www.lintec.co.jp

社名の由来は、リンケージ(結合)とテクノロジー(技術)。ロゴマークは、地球を表す楕円
にLINTEC・LINKAGE(結合)・LOYALTY(誠実)の三つの「L」で表現したウェーブ(波)
を組み合わせでデザイン。世界を舞台に飛躍していこうという決意を込めています。

IRメール配信サービス のお知らせ



当社では新製品情報なども含め、
株主・投資家の皆様へさまざまな
ニュースを幅広くお届けするため、
IRメール配信サービスをご提供
しています。配信をご希望の方は、
当社IR情報サイトよりご登録を
お願いいたします。

www.lintec.co.jp/ir



※スマートフォンなどで上記の二次
元コードを読み取ると、登録ページ
へ簡単にアクセスできます。

発行 広報・IR室 2021年9月
TEL. (03) 5248-7741
FAX. (03) 5248-7754



ユニバーサルデザイン(UD)の
考えに基づいた見やすいデザ
インの文字を採用しています。